

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日		2025年(令和7年) 4月 1 日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題解決力・コミュニケーション力
・各校とも、知・徳・体に係る工夫した取組がなされている。児童・生徒のつますきへのアプローチや心の教育の充実、幼保小中連携教育を今後とも進めてほしい。 ・研究方法等の工夫が見られる。児童・生徒、教職員、保護者・地域が、ともに挑戦できる場を大切に、やりがいや充実感が一層向上することを期待する。	・小集団での人間関係づくりはできるが、大きい集団における関わりには課題が見られる。 ・学習に向かう意欲や、努力する態度が育ってきた。基礎学力定着に向け、さらに評価の精度を上げるとともに、活用場面の充実を図る必要がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。 【学びづくり部】校区研究テーマを踏まえ、課題発見・解決型の学びづくりを行う。 【生徒指導部】小中及び小小連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。 児童・生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。 【健康・体づくり部】児童・生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。 ※よりよい学習習慣や生活習慣づくりに向けた系統的な指標「校区スタンダード」の作成

III 自 校

ミッション		育成する 資質・能力	課題解決力（思考力・判断力・表現力） →①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→⑤振り返る→	コミュニケーション力（学びに向かう力） ①伝え合う ②認め合い協働する
ふるさと御野に愛着と誇りを持ち、未来を拓く意欲をもった人材を育成する。 ○教育活動を充実させ、児童に学力をつける。 ○多様性を理解し、他者と協働して活動する力を付ける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいという思いを育てる。		めざす 子ども 像	低 学 年	① 対象と関わり、気づきや疑問からやってみたいことを見付ける。 ② 観察やインタビュー、撮影などをして情報を収集する。 ③ 経験したことや活動を思い出したり、比べたり分類したりして考える。 ④ 相手に応じた言い方で、自分の考えを伝える。 ⑤ 他者の考えに感想をもつ。
学校教育目標 自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成			中 学 年	① 体験活動やインタビュー等で得た情報から、興味・関心をもとに、課題を見出す。 ② 観察やインタビュー、撮影などをして必要な情報を収集する。 ③ 複数の情報を比較・分類し、特徴を見付ける。 ④ 相手や目的を意識し、自分の考えを工夫して伝える。 ⑤ 他者の考えの良さを見付ける。
現 状			高 学 年	① 様々な情報をもとに、自他の思いや願いから、課題を見出す。 ② 多様な方法で情報を収集したり、情報の真偽を確かめたりする。 ③ 複数の情報を比較・分類したり、関係付けたりして特徴を見付ける。 ④ 目的や意図に応じて、話の構成を考えたり、資料を活用したりして、工夫して伝える。 ⑤ 他者の考えの良さや改善点を見付け、他者の考えから自分の考えを改善する。
＜児童生徒＞ ○学習への意欲やねばり強く努力する態度が育ってきたが、知識の活用には、まだ課題がある。既習の知識や技能を活用し自ら考えたり、工夫して表現したりする場を効果的に設定し、学習過程を充実させる必要がある。 ○児童は、素直で優しく、真面目に行動しようとしている。一方、他者との関わりの中で、自分の思いが言えなかったり、相手の思いを理解できなかったりする場面も見られる。さらに、協力して活動する良さを実感するよう取り組む必要がある。		テーマ	他者と協働し、課題を主体的に解決する児童の育成 — 地域とかかわり、探究的な見方・考え方をはたらかせる単元構想を通して —	
＜授業＞ ○生活科と総合的な学習の時間を核にした総合単元構想を作成したが、学習課題の見直しや、学習過程の充実を図る必要がある。 ○単元構想シートを活用し、各教科等の「見方・考え方」をはたらかせて納得解を生む授業づくりに努めた。今後、知識を活用する場を積極的に設け、使える知識・技能の定着を図る必要がある。 ○児童が学習に達成感を感じ、意欲を高めつつある。育成すべき力を明確に学びの良さを実感するとともに、学習したことが、次の学習や家庭学習等につながるようにする。		研究 内容等	○地域素材を活用した探究的な単元の構想 ○見方・考え方をはたらかせる教師のファシリテーション（課題との出会わせ方 発問 つますきや困難への支援、個別・協働的な学びの場）の工夫 ○育成する資質・能力を明確にした振り返り（理解 関連付け・統合 自己の成長）の充実	
		めざす授業の姿	◇児童が知的好奇心を持ち、意欲的に学びに向かう授業 ◇児童が、自らの経験や既習の知識・技能を活用して対象と関わり、体験、調査、対話活動等を通して課題を解決しようとする。 ◇児童が学習を振り返り、達成感や充実感を感じると共に、学習を次へとつなぐ授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ○短期・中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	目ち学ぶ 主体的・協 働的に統 けの育 成	★	新規	他者と協 働的に課 題を解決 する授業 づくり	○地域素材を活用 した単元づくり 及び課題発見・ 解決学習の実施 ・地域学習単元構 想図作成・交流 ・低・中・高学年部 授業提案	○主体的・協働的な学習に係 る児童の意識調査 肯定的評価：80%以上 ・課題の解決に向け、自分で考 え、自分から取り組んでいる ・自分の考えと理由を相手に分かり やすく伝える工夫をしている ・学んだことを次の学習や実生 活に結び付けて考えたり活か したりする ・今まで知らなかった地域の良さを 発見した									
					○国語科、算数科を 中心とした基礎学 力の定着 ・みのっ子タイムに おける基礎・基本 学習 ・家庭学習の習慣 化(宿題・予習・ 復習)	○国語科、算数科の学習に係 る意識調査 肯定的評価：80%以上 ・学習内容がよく分かる ・分かった点や分からなかった点 を見直し、次の学習につなずける ・家庭学習を継続してやりきっている ○標準学力調査等の実施 ・4、12月に実施し結果が向上									
3	人間性豊か 思いを伝 え合い、互 いを理解し 合って、自 分も大切に する児童 の育成	★	継続	児童が多 様な他者 と関わり 合い、認 識する定 めの向上	○児童が企画・運 営・改善する行 事や委員会活動 等の実施	○児童の意識調査 肯定的評価 80%以上 ・自分で考え、活動した ・友だちや周りの人の考えを大切 にして、協力しながら課題の解 決に取り組んでいる ・自分や周りの人の良さに気付い ている									
					○児童がお互いの 考えを認め合う クラス会議の実 施										
1	たくましい 自らの健康 や体力に関 心を持ち、 よりよい生 活を築こう とする児童 の育成	★	新規	基本的生 活習慣と 運動への 意欲の向上	○児童が自分の生活 を振り返り、より よい生活習慣づ くりをするチャレ ンジ週間の実施	○児童の生活時間調査 ・学習、読書時間 ・スマートフォン、ゲーム時間 ・運動時間 ○児童の意識調査 肯定的評価85%以上 ・生活習慣を意識して生活して いる ○体力テストの課題となる 運動の再テスト ・課題となった運動の結果向上									
					○児童が運動への関 心を高め、自分の目 標を目指し取り組 む活動の実施 ・運動遊びの紹介 ・体育授業研修実施										

[illegible]

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。